

平成28年度を迎えて

院長 千葉成宏

いつもこのページでは、新年度の病院の運営目標をお伝えしていましたが、これは下の枠に示すにとどめ、今年は、病院の中で大切な活動をしていながらあまり目立たないところを紹介します。

*昨年、当院は「地域がん診療病院」の指定を受け、その大事な要件の一つに「緩和ケア」の充実があります。緩和ケアはがんなどに伴う心身の苦痛を和らげるアプローチで、ご存知の方も多いと思いますが、がんと診断を受けたその時から始まります。当院では専従の認定看護師2名を中心に多職種のメンバーによる「緩和ケアチーム」が、活発に活動していて、院内の認知度も上昇中です。がんの診断を受けた方、そのご家族は、ぜひご相談ください。

*患者さんの相談と言えば、本家はこちらです。がんをはじめ様々な病気に関連して、心身の苦痛に加え、仕事のこと、お金のことなど社会的な問題も発生します。直接の診療以外の種々の悩みごとの相談は「総合相談センター」がお引き受けします。県内でも有数のスタッフ（専門的な教育を受けたソーシャルワーカー）を揃え、社会資源の利用などを含め多面的に相談に応じていきます。

*病院で診療を行う上で最も大切といえることは、良い医療を行い、良い結果を得ることではありますが、いつも思う通りにはいきません。そこで、いつも努めるべきことは、先人の言葉にあるように「患者さんを傷つけるな」となります。「医療安全」ということです。これを常に監視し、事故防止に努め、院内感染を防ぐために働いているのが「医療安全チーム」と「感染対策チーム」です。それぞれ専従のリーダー達が、院内をまわり、目を光らせています。

病院では、他にもいろいろな仕事をしている数多くのスタッフがおられ、チーム医療を展開しています。住民の皆様のお役に立てるよう努めて参りますので、お気づきのことがありましたら、ご一報下さい。

● 平成28年度病院運営目標 ●

1. すべての患者さんに Hospitality の心で接しよう！

病院職員の理念「やさしく 親切 ていねいに」を実践する。簡明なようですが、実は気持ちだけではだめなのです。専門職の集団として、質の高い医療（EBM 根拠に基づく医療）が、きちんとできることが一人ひとりに求められます。

2. 病院の機能分化は現在進行形！

国の描く未来像に従い、病床数を削減し、病棟ごとの機能を明確にする。「これで目標達成」ではありません。将来を見据え、目指すとおりに進行しているのか、軌道修正は必要ないか、常にチェックする心がけが大切です。

3. より効率的・機能的な病院運営をしていこう！

DPCが本稼働し、IT化も順次進行していきます。自分たちにできる「カイゼン」を積み重ね、無駄を省く姿勢を続け、患者さん・地域住民そして職員すべての健康・生活を支え、いのちを守ることにつなげましょう。

誰もが受けることのできる乳房再建手術

当院では地域に根ざす病院として、受診しやすい乳癌検診の提供と、精度の高い精密検査、最新の乳がん診療を目指しています。今回、新しく『乳房再建外来』を開設いたしました。

今回は、同外来を担当されている山梨大学医学部附属病院形成外科の匂坂正信先生から乳癌手術後の乳房再建について最新のトピックスについてご紹介いただきました。乳癌手術後の方はもちろん、ご家族や知人で乳房切除後の方がいる方の参考になればと思います。

(乳腺外科 飯塚 恒)

「乳癌の手術を受けたことを、ふと忘れる瞬間がある」

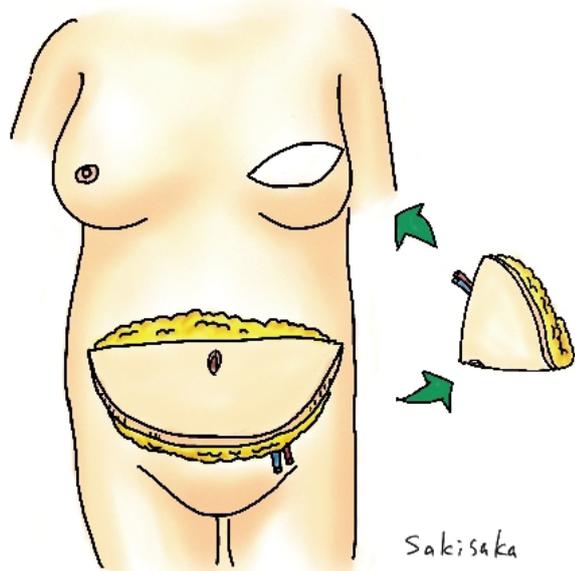
乳房を全て摘出して乳房インプラントによる乳房再建を行い、その後に乳輪乳頭を作る手術を行った患者様から頂いた言葉です。我々が行った治療によって、そこまでの思いを抱いてもらえるのかと心に残り、励みになっています。

癌の闘病、さらに手術で体に傷がつくということは、それだけでも大きなストレスとなります。ましてや乳房の切除というものは、体の表面から見える部位であり、体のラインに変化を与え、また女性の象徴的な部分でもあることから、術後の乳房の喪失感によって多くの患者様が辛い経験をされてきたと思います。

しかし現在は、乳房切除と同時に、または乳房切除が終わって乳癌治療が一段落してから、乳房の再建まで一貫して行うことが、乳癌治療の基本となってきました。また、乳房切除術をすでに受けていて、数か月～数年経っている方でも乳房再建は可能です。

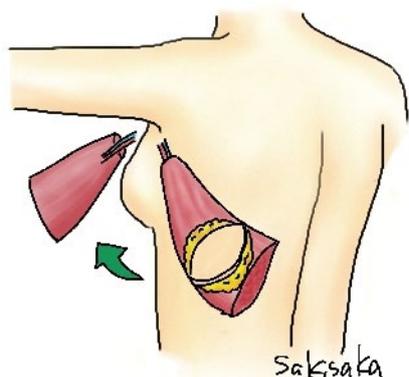
乳房再建の方法については大きく分けて2つあります。1つは自分の体の組織（皮膚、皮下脂肪、筋肉）を腹部や背部から移植する方法で、もう1つはシリコン製の乳房インプラントを用いる方法です（いずれも保険適応の手術）。それぞれの方法には利点欠点があり、またこれまでに受けてこられた乳癌治療の内容によっては向き不向きがあります。

腹部からの皮弁移植



- ・腹部の皮膚と皮下脂肪を皮弁という状態に加工し、胸部に移植します。
- ・皮弁への血流を維持するために、皮弁の血管を胸部の血管に顕微鏡を用いて吻合するため、長時間の手術となります（8～10時間）。
- ・揺れる乳房が再現できます。

背部からの皮弁移植



- ・背部の皮膚、皮下脂肪、筋肉を、血が通ったまま、前方へ回転させ、乳房のボリュームを再現します。
- ・血管の吻合が必要ないため、腹部皮弁移植よりも短時間の手術となります（5～6時間）。

再建方法を相談していく中で、多くの患者様が気にされるポイントとして、「胸以外の他の場所にまで新たな傷をつけたくない」という点があげられます。その場合はもともと豊胸手術で使われていたシリコン製の乳房インプラントを用いる手術が向いており、2013年7月からは保険適応となりましたので、現在は選択枝の幅が広がっていると言えます。

乳房インプラント



- ・インプラント移植の下準備として、組織拡張器という皮膚を延ばすものを留置します（2時間前後）。
- ・シリコン製の乳房インプラントを移植します（2時間前後）。豊胸手術で使われているものと同じ材質であり、柔らかいものです。
- ・胸部以外には傷がつかずに済みま

今回スタートした乳房再建外来では、実際の手術の流れや入院スケジュール、また個々のケースに合った再建方法について、写真やイラストを交えながらじっくりと説明させていただきます。対象はこれから手術を受ける方や、すでに手術を受けた方までどなたでも大丈夫です。話を聞きに来られるだけでも結構ですので、お気軽にご相談下さい。また山梨厚生病院以外で乳癌の治療を行った方でも、対応可能です。

乳房再建外来についてのお問い合わせ・予約は・・・

山梨厚生病院 病診連携室 0553-23-1999

問い合わせ受付時間：月曜日～金曜日 8:30～17:00 / 土曜日 8:30～12:00

* 外来は毎月1回不定期の木曜日午後（1回30分の予約枠）となりますので、当月の診察日は上記窓口にお問い合わせください。

* 外来診察は他の診療科同様、保険診療となりますのでご安心ください。

胃部X線テレビ検診車を導入しました。

当院では胃がん及び胃部疾患の早期発見のための集団検診を効果的に実施するため、平成27年度の競輪（公益財団法人JKA）の補助を受け、デジタル方式による最新の胃部X線テレビ検診車を導入し、3月より運用を開始しました。

デジタル方式により撮影時のフィルム交換が不要となり、撮影後すぐに撮影画像が確認できます。そのため再撮影が必要となった場合でも、その都度その場での取り直しが可能です。

待合スペースも現有検診車より2名分多くなり、冷暖房完備の待合室にて以前より多くの受診者様にお待ちいただくことが可能となりました。また段差をなくしたフルフラット化により、より安全に撮影台までアクセスできます。

様々な受診者の皆様へのやさしい配慮と高精度のデジタル画像により、胃がんをはじめとする胃部疾患の早期発見に大きな力となってくれるものと期待しています。



34名の新入職員を迎えました



当会では平成28年4月1日付で看護師19名、放射線技師1名、理学療法士3名、作業療法士2名、臨床検査技師1名、社会福祉士1名、精神保健福祉士1名、診療情報管理士1名、事務職員6名、計34名の新入職員を採用いたしました。

当会の理念である「やさしく・親切・ていねいに」の気持ちを常に持ち続け、各配属部署において、患者様をはじめ地域社会に少しでも貢献できるよう新人34名と共に、職員が一丸となり協力し合い、研鑽に励む所存です。何卒宜しくお願い致します。